



八千代市郷土歴史研究会
 会長 村田一男
 事務局 八千代市勝田台 3-24-10 牧野方

八千代市民文化祭 郷土史展

とき：11月23日(土)午後1時～5時
24日(日)午前9時～午後4時

テーマ「高津新田」(現八千代台)の昔と今

ところ：勝田台文化プラザ 2階展示室

ようこそ郷土史展へ

“約三百年続いた村の名前が消えた”
 それは「高津新田」、今の八千代台東西南北です。
 高津新田の村名は、明治時代の村名となり、さらに大字名として存続してきました。
 やがて高津新田の松林が切り開かれ、昭和31年には八千代台駅が開業し、千葉県住宅協会の手で全国初の住宅団地が誕生。そして市制がしかれ、昭和47年4月までですべて新町名表示となり、まったく新しい街へと変貌したのでした。
 このように大きな変遷をとげた特色ある村を、村の成立から発展・変遷のあゆみをまるごと調べて、2年がかりで記録しようというのが私たちの研究です。
 発表1年目の見所は、6枚の地図で変遷を見、村を規制していた野馬除土手のありさまを知り、民俗行事で村の絆を感じ、村の石造物で時代様相をつかむ事にあります。
 明治9年のきれいなめずらしい村絵図も展示します。
 この絵図は「史談八千代 27号」に本会機関誌としてはじめてカラーで掲載します。
 みなさま どうぞごらんください。

会長 村田 一男

お知らせ

12月22日(日)

高津新田見学会と受賞祝賀会

- ・ 集合：八千代台改札口 午後1時
- ・ 祝賀会：5時半より、八千代台近辺にて
- ・ 会費は5000円・申込は園田まで。

初春2003年1月5日(日)

深川七福神巡りと史跡を訪ねて

- ・ 集合：JR 両国駅西口改札前 10・00
東葉高速線勝田台駅 8・52 発
(西船橋にて JR 総武線各停に乗り換え)
 - ・ 申込：電話番号を記入し、ハガキ 又はメールで事務局まで。
 - ・ 会員以外の方の参加大歓迎(資料代500円)
- 10月の歴史散歩では深川を東から西へ歩きましたが、今回は大川に沿って北から南へ、大相撲の初場所も近く熱気のコモる両国から、粋なお正月の雰囲気満ちた門前仲町まで歩きましょう。
- ・ コース：両国駅 深川神明宮 深川稲荷 龍光院 円珠院 心行寺 冬木弁天堂 = 昼食 = 富岡八幡宮 深川不動尊 東西線門前仲町駅 解散予定(15・00)

八千代市郷土歴史研究会は 11月1日、平成14年度八千代市教育功労者として団体表彰を受賞しました。

永年の活動が認められたことを皆さんで喜び、市への感謝をこめ、今後の活動の励みとしましょう。

7月7日七夕の日、高津新田公会堂に集まった会員23名、迎えてくださったのは稲垣峰一・実枝子自治会長ご夫妻、大木健次郎前市議会議員、稲垣和雄氏・内田正勝氏の長老方。

今年度の調査目標にそった資料収集のためである。まずは会長から「七夕にちなんで、貴重な出会いであり、実り豊かであることを願う」由のあいさつ。「高津新田研究資料3」に基づき、江戸時代に始まる新田村にでている地名の聞き取り確認から作業は始まった。

まず「高津新田」という地名について高津村の新田ではなく高津村とは関係がないこと、長作村から出た人の新田と考えたほうがよいこと。長作から出た農家が「大受け」でこの辺を開墾した土地であることから、ちなみに近在の親戚などは会話の中で「新田の家」とは言わず、「オーケ（大受け）のイエ」と呼んでいることなど、思いがけない生きた証言をお聞きすることができた。

高津新田という地名は『千葉郡誌』によると「延宝4年6月の創置」とでている。西暦1676年で四代将軍家綱の時代、今から三百年以上も昔である。現在「高津新田」という地名は公会堂バス停などに残っているだけで住居表示にこの名称はなく、私たちが調査目標にした趣旨も、失われたこの地名の土地に何世代か生活した住民の変遷を、記録しようということなのだ。

今から百年ほど前、明治政府が軍隊の演習場を造るために、「西野」というところに住んでいた農家を強制的に立ち退きさせ、現在の南二丁目仲東に移住させた。西野という土地は、現在は習志野市の日立製作所

の北側あたりであったという。このときに移住した家は、I家（カンエモン）I家（シチペー）E家（チョウエモン）の3戸であったという。

「高津新田」は三方を谷に囲まれ、南側の「下野牧」野馬土手の残る方のみが台地に続くほぼ長方形をした地形であることを会話の中からつかみとることができた。

この北を限る流れ「駒止の谷」（長者伝説をもつ）は、現在習志野市に発する谷津の「一の橋」「二の橋」「三の橋」「愛宕沢」「上宮間沢」「下宮間沢」という地名を昭和7年の地図上に確認できる。「愛宕沢」は概略現在の「八千代台西十丁目」という住宅街になっていることを知る。

広大な台地上の山林は松やけやきなどの樹木が茂り、薪炭の供給地であり、幕張・検見川などの海辺の村に向けて出荷された。けやきの枝は海苔のシビの材料で必需品として求められていった。

そして主食の米は、半日もかかって、「深作」「四つ塚」「大留入」などというところの田圃に耕作に行く家もあったそうだ。「四つ塚」という地名の位置は、現在3カ所は推定されるが、1カ所は不明だそうだ。

「仲東」「仲西」「大東」「大東道付」「仲東道付」という地名は、現在の八千代台南1～3丁目に相当するという。

昭和の初め、養蚕も行われていたなど、生活に密着した風俗・習慣などは、今後それぞれに手分けしてお聞きしにいくこととして、思いがけず時を過ぎたので、昼食にする。

お昼から「辰新田」「愛宕」「実花緑地」「西野」などの地名を実地に歩くことにする。

台風崩れの風の中、千葉市との境を北上、京成線のガードを過ぎ、御嶽神社の境内を見てす

っかり住宅地に変遷した愛宕地区から、沢の名残をもとめて習志野市の境を、「四の橋」あたりまで踏破し多くの情報が得られた。



そのほかの活動報告

8月11日(日) 学習会

市郷土博物館・午後1～5時
・「高津新田」研究の報告
・今後の研究方針について
・17名参加

9月8日(日) 拡大役員会

市文化伝承館・午後1時半～5時
・「史談八千代」原稿編集方針
討議ほか
・13名参加

9月15日(日) 学習会

市郷土博物館にて午後1～5時
・「高津新田」研究の報告
・「史談八千代」27号の内容
・確認・郷土史展の概要討議
・20名参加

10月20日(日) 校正作業

市郷土博物館にて午後1～5時
・「史談八千代」27号の校正
・13名参加

10月27日(日) 歴史散歩

・旧深川大工町・江戸深川資料館ほか見学
・好天の中31名参加
(詳しい報告は次号に)

11月17日(日) 展示物製作

市郷土博物館にて9～16時
・郷土史展の展示物製作作業

高津新田の旧家訪問

聞き取り調査覚書

畠山 隆

8月25日午後、畠山・牧野・森山の3人でI氏(屋号 嘉平治)からお話を伺った。

I氏宅のすぐ裏を流れていた川を「タッシンデン」と呼んでいた。幅は2間ほどあった。時々兵隊が川に米をとぎに来た。子供だったので兵隊と仲良くなり軽便鉄道に乗せて貰ったこともあった。

野馬除土手は、二重の土手で昭和15年位まではあった。堀は深くて子供では越えられなかった。その後北側の土手を崩して畑にした。

一帯に原野が広がっていたが、そこに武石、長作、幕張などからも薪や草採りに入って来ていた。薪は馬車で検見川まで売りに行った。乾燥草は大和田と実初に草屋という馬糧を買い取る店があって、馬車で10貫単位に梱包して売りに行った。馬車がない時は小荷駄で運んだ。

航空写真に見られる矩形の様子は田畑ではなく一面の原野で、境界線から両側1尺幅ずつ離して松ノ木を植栽したのでそれが方形に見える。夜など遊びに出掛けた時はこの境界を空を仰ぎながら歩いた。

地主の家には通常野良男(出稼ぎ)が数人にて長屋門脇の8畳間で寝泊りしていた。女子は子守り、炊事婦として母屋に住んでいた。

I氏は13代目に当る。長作小に通った。I氏の父親は13才の時に亡くなったため、まだ子供だったが村の会合に行かされた。そのお蔭で今でも他の人達より昔の村のことをよく覚えていられたと思う。

所新田の3軒が、明治政府の買い上げで移転させられた

時は、I氏宅が所有していた畑を提供した。

高津新田研究資料4に載っていないが、昔からの農家でW氏(屋号「久次(治)郎」家)が住んでいる。古文書に出てこないのがおかしい。

各農家の菩提寺は、船橋の了源寺(浄土真宗)、長作の長胤寺(日蓮宗)、大和田の円光院(真言宗)に分れている。

迅速図にある金刀比羅祠は、庄左衛門家の南隣に現存する。昔は火渡り、裸参りなどの行事があった。

諏訪神社は大留入から移転してきたと聞いている。今の東第二小学校付近に耕作田があった。大留入の諏訪社があった場所の地形は、長作の諏訪社の地形によく似ている。

諏訪社のお祭りの神輿は、O家の祖父がお伊勢参りの帰りに買って来たもので、豊作の年に担いだ。その後は破損したため10月の祭礼時でも拝殿に飾るのみである。

聞き取り調査覚書

酒井正男

8月27日酒井と平野仁蔵・K家・U家2軒のお宅を訪問、聞き取り調査を行いました。

両家のお二人にはお忙しい中、今までの疑問点のほか、数多くの貴重なお話を伺うことができました。

1. K家(屋号・甚兵衛)

菩提寺は長作の長胤寺(日蓮宗)、他に5家が同じ。

諏訪神社の本殿は、古くは大留入(現八千代台東5丁目)の高台にあった。この場所の景観は、長作にある諏訪神社に酷似している。

ツジキリは昭和35年頃まで行われていた。O家で準備された注連縄を丸めて、それに唐辛子とヤツデの葉、半紙に線香を巻き込んだものを付け、柏井と長作方面の2ヶ所へ飾り付けていた。

富士講は、細々と昭和30年頃まで続けられた。

子供達に寺子屋を開いていたと伝え聞くが、筆子塚など残っていないので確認ができない。なお高津村の子供達は柏井の泉蔵院に通っていた。この通り(現東3・4の高圧線あたり)を「寺子屋道」と呼んでいた。

2. U家(屋号・平左衛門)

小学校は昭和24年まで長作小に、翌25年度から大和田小へ通学するようになり、その後32年度から八千代台住宅団地の入居にあわせる形で、八千代台小が開校したため、永年の通学道の厳しさから開放された。

高津新田公会堂の周辺は以前から「観音様」と呼ばれていた。

「四ツ塚」(現東3・4京成線路側の給食センターあたり)には昭和40年始め頃まで小高い古墳(円墳)があり、子供達の格好の遊び場所であった。

オビシャなどの村の行事は神社でなく、各当屋で行い、部屋や道具類も揃っていた。

なりわいは農業、田圃は足太の東小学校近くから現屋敷下に7~8反耕作していた。

聞き取り調査覚書

わらび ゆみ

9月8日5時半ごろ、中島・平野寿子・石井・成瀬の5人でO家(屋号・八郎兵衛)を訪問し、ご当主から主に諏訪神社の祭礼と民俗行事について1時間ほどお聞きしました。

オビシャなどの内容については、「史談八千代」27号に藤が記したので、その他の事項についてのみ報告します。

なおO家のご当主は事業を営まれている働き盛りの戦後の昭和25年生まれの方で、非常にご多忙にもかかわらず、取材に応じていただいたことを感謝します。

旧家の檀那寺は長作の長胤寺のほか船橋の了源寺、大和田の円光院に分れていて、仏教行

事は、各家ごとに営まれている。
旧家はそれぞれ墓地を持っていたが、現在は西集会所の裏側にまとめた。

かつて葬式は、ロクドウ(埋葬の作業)を皆でやっていたが、当家は回ってこなかった。諏訪神社をお祭りする家であったから。

お盆は13日に迎え、14日に墓参り、15日に送りに行く。

新盆は12日にオタナツリ、をし、高灯籠を24日まで出しておく。

4月18日は花島観音の御開帳に連れ立って参詣に行った。

三峰神社の講は、オビシャでくじをひいて当たった人が代参していたが、一巡したので、近年はバスで皆いっしょに行った。

40年くらい前までやっていたらしい富士講は、講の行列が諏訪神社の境内から出る途中、お金をまいたので子供たちが拾いに行った。

子供が生まれると、諏訪神社のほか愛宕・御岳・金毘羅の3神社を回り、また畑の子安神社にお参りした。また7月15日には、初・3・5・7歳の時、稲毛の浅間神社にお参りし、祝儀をくださった仲人に神社でいただいた団扇と桃を届ける。

10月9日は、諏訪神社の例祭で、その朝、当番が24軒の家に二宮神社から配布された稲荷さまの幣束と名簿を配る。

オビシャの「オトウ」とは別に、諏訪神社の名簿があり、東と西、2名ずつ4名の当番をしてもらうが、葬式のあった家はその年ははずす。諏訪神社氏子名簿には、「祭礼費・お札・五月守り・九月守り・年神様」の各対象者に印がつけてあって実用的になっている。(最近パソコンで作る)



道標補遺について

10年度から12年度に本会で行った道標悉皆調査については、その後も継続して新発見の道標や移動の記録など、調査データの更新を続けています。

(調査対象の基準は、八千代市内にある道標の全て、市外は八千代市内地名のある道標、市境にあるか、市内主要古道に深く関連する道標です)

「八千代の道しるべ」発刊以降の新発見の道標は「史談八千代26号」に掲載しましたが、それ以降の調査済みデータについては今号の次ページのリストの通りです。

この中から、「フ06」岩浅家の道標について、興味深いエピソードをお伝えします。(蕨)

八木が谷の

岩浅家の道標について

関和時男

6月30日、岩浅浩様から次のようなハガキを頂戴した。

「梅雨には雨が降った方が良いでしょう。(省略)二月にご来宅戴きました折りに道標を修理して建てる旨お話し上げました。本日建ちましたのでお知らせ申し上げます。折れたままではかわいそうだと思って居りましたので私も出来上がって喜んで居る一人です。折をみてご高覧戴き度お知らせいたします」

実は、今年の2月10日に村上さんの車で福田氏・成瀬さんと私で、「百吟逸趣」に載る俳人里月こと岩浅利七さんの生家が分かり、その子孫に当たる当主岩浅浩様宅へ、里月さんのことについてのお話を伺いに訪問したときのことである。

いろいろと話の弾む中で、庭に置かれていた2基の道標に話が移り、折れたままでは可哀想なので修理して1基は自宅に、1基は小学校へ建てて児童の教育に資したいと話されたのが現実になったのである。

早速、篤くお礼を申し、都合の

付き次第お伺いしたい旨お返事を差し上げた。

少々遅くなったが、9月15日村上さんと岩浅家を訪問した。

奥様が迎え出られて、主人は今静養中なので失礼することと訪問の要旨を告げ、自宅前の土地の角に建てられた道標に案内された。

道標には「従是北白井村ヲ経テ木下町二至ル」「従是東神保新田ヲ経テ大和田町二至ル」と刻まれそれぞれ字の上に矢羽根のついた矢印が刻まれている。「矢印に従い是は北へ云々」と読むのだろう。



鉄柵に囲われていて見落としがちだが、岩浅家の前の角なので当地を散策の折りは是非見逃し無く。

あとの1基は、八木ヶ谷北小学校の正門正面の校名の石碑の右脇に建てられ、児童の目で見える民俗資料に資されている。

それらを目の当たりにして、岩浅氏の市井の民俗資料に私財を投じて復旧され永く後世に伝えられる行為に頭が下がる思いである。

諏訪神社例祭に参加

10月9日、高津新田諏訪神社の例祭に、本会から会長以下11名が参加させていただき、氏子の方々に続いて、会長が玉串を奉てんしました。



道標補遺 (2001年10月~2002年10月調査分)

番号	所在地	種類 造立主旨	造立 年月日	形状 像容	道標機能関連銘文		造立関係者銘文
E 19	下高野ゲート ボール場前四 叉路東南駐車 場塀際	庚申塔	大正9年 (1920)	駒型 文字碑	正面	西米本いなり道	
					右面	此方米本城橋道	
					背面	東青菅臼井道	
サ 16	佐倉市先崎十 字路	道祖神	安永2年 8月吉日 (1773)	石祠 文字碑	右面	右 / ほ / 木 / 道	
					左面	左 / 米本 / 舟橋 / 道	
イ 04	印西市戸神 920 宗像神社内	道標	大正8年 1月吉日 (1919)	角柱型 文字碑	正面	此方 舟尾神崎方面	
					右面	右 / 小倉亀成布佐 / 泉新田 木下 / 方面	
					左面	左十余一平塚方面	
イ 05	印西市戸神 123 高橋松三氏方	道標	大正8年 1月吉日 (1919)	角柱型 文字碑	正面	此方武西佐山	
					右面	右当区ヨリ泉新田	
					左面	左作場道	
フ 06	船橋市みやぎ 台4-22の敷 地内	道標	大正8年 9月再設 (1919)	角柱型 文字碑	正面	従是南八栄村ヲ経テ船橋 町二至ル	豊富村青年團八 木ヶ谷支部
					左面	従是北白井村ヲ経テ木下 町二至ル / 従是東神保新 田ヲ経テ大和田町二至ル	
サ 17	佐倉市小竹四 社大神境内	御大典記 念道標	昭和3年 11月 (1928)	角柱型 文字碑	正面	(正)面 井野上高野方面	小竹修斌会
					右面	(井)佐倉上座方面	
					左面	(当)区西ノ作	
サ 18	佐倉市青菅旧 志津小分校校 庭内	二十三夜 塔	明治22 年9月 (1889)	角柱型 文字碑	正面	東小竹臼井道	青菅(邑)講中
					右面	西上高野村上道 斜八井野新田千葉道	
					左面	南井野上座道	
					背面	北下高野米本道	
サ 19	佐倉市青菅旧 志津小分校校 庭内	戦捷講和 記念道標	大正8年 (1919)	角柱型 文字碑	正面	正面当区先崎ヲ経テ岩戸渡 船場二至ル / 右下高野上高 野城橋方面二至ル / 左井野 町勝田大和田方面二至ル	志津村青菅青年 団 高岡高次郎 小嶋政雄
サ 20	佐倉市上志津 1695	馬頭観世 音供養塔	9月吉日	駒型 文字碑	右面	西井野新田 北臼井道	村田源治 豊田 磯吉 田中新蔵 全豊吉 蜂谷熊 治郎
					左面	東四ツ街道 南勝田道	
ハ 01	印旛村吉田 785の四辻	御大典記 念道標	昭和3年 11月 (1928)	角柱型 文字碑	正面	南保品ヲ経テ大和田方面	吉田青年團建
					右面	東	
					左面	西高野原台二至ル車馬不通	
					背面	北(草)深ヲ経テ木下方面	

データ管理・小菅 作表・蕨・村上

慶安事件こぼれ話

牧野光男

「慶安事件」と聞いて首謀者の名前が言えるようですと、相当の歴史通といえるかもしれません。

「由比正雪の乱」ともいわれている。慶安4年(1651)7月 由比正雪、丸橋忠弥、金井半兵衛などが計画した幕府転覆未遂事件である。この年の4月に三代将軍徳川家光が死去し、四代家綱が幼くして将軍になり、老中松平信綱が補佐していた時代である。この老中に「本郷の浪人丸橋忠弥に謀反の企てあり」と訴人があり、捕らえられて事件が明るみに出された。事件の中心人物は牛込榎町に住み軍学者を称する由比正雪で、忠弥が江戸城を襲うのと呼応して久能山の金蔵を占領するために、駿府に向かっていた。追手に宿を囲まれると遺書を残して自害してしまった。そして関係者三十余人が「鈴ヶ森」の露と消えた。主謀者の一人・丸橋忠弥の居住跡と伝えられる所が山形市相生町にある。現在は市街地の真ん中で、説明板によると昔は百姓町というところで寒河江街道の道筋にある。丸橋忠弥は長曾我部盛親の子で、母に抱かれて出羽に逃れ山形城下の近郊渋江村に住み、長じて山形に出て此处に居住して宝蔵院流の槍術師範をしていたという。事件後この道場は荒廃してしまったと伝えられているという。

この事件のあった時期は、関ヶ原合戦から五十年経ち、その間徳川幕府はたくさんのお大名を取り潰し、幕藩体制の確立に努めた結果、浪人した武士は四十万人にもなったといわれている。それに加えて飢饉による農業の行き詰まりと、年貢の減収は直接武士の生活を圧迫した。大名家では藩政の行き詰まりによる対立からお家騒動が頻発した。佐倉藩をみると、二代藩主堀田正信は承応3年(1654)将門山大明神に石鳥居を奉納している。この神社は平将門と惣五郎が合祀されている。こ

の年は慶安事件の3年後にあたる。堀田正信は万治三年(1660)幕府に無断で佐倉に帰城したため改易されたが、自分の領地を返上して困窮する旗本を救済するように申し出たため「狂人」として処分されたとも、或いは明の鄭成功(国選姓爺ともいう)の援兵要求に対して、老中の反対にもかかわらず出兵を強硬に主張したためであるともいう。

会員諸氏におかれても、身の回りとか旅先などで出合ったことから、その時代背景などを調べてみるのも面白いと思いますがいかがでしょうか。

戦国時代

「大和田」を通った献上柑子
わらび ゆみ

前ページに載せた「道標補遺」リストを見ていただいてもわかるように、「大和田」という地名は近世・近代道標の銘文に数多い。でも、いったいつ頃から、「大和田」を通る道が発達していたのであろうか。

今年春、船橋市郷土資料館で「中世の船橋」という企画展が開かれ、その中に小見川町森山の谷本家の文書が展示されていた。

この文書は文禄4年(1595)下総の東端の森山から江戸まで、徳川家に吉礼として柑子を献上するため人足伝馬調達を指示する文書で、最後に次のようなルートが記されている。

「森山おかい、田 - 府馬 - 錦木 - 大寺 - たこ - さくら - うす井 - 大わた - 舟はし - やわた市川 - かさい - あさくさ」

また、小笠原長和氏の「徳川家への柑子献上」(『中世房総の政治と文化』)を紐解くと、谷本家にはもう一通、慶長7年(1602)の同様の主旨の文書があり、「上飯田之郷 - ふま - かふるき - 大寺 - たこ - 佐倉 - うすあ - 大和田 - 舟橋 - やわた - 市川 - かさい - あさ草 - 江戸小伝馬町」の宿次が載っていた。

このコース、多古から船橋まで

今の296号線に近かったこと、また船橋などと並んで陸上交通の宿継ぎの拠点として大和田が、小田原合戦(1590年)の5年後、まだ徳川家による交通体系の整備以前の時代に、早くも登場していることも興味深い。

大和田宿の成立については、まだわからないことが多い。伝承として「小田原落城を機に引きこもった千葉氏一族をして家康の命令で町たてをさせた」と牧野事務局長が「八千代の道しるべ」に書いておられるが、時代的にもいわば後の大和田宿に関連するようにも思われる。

ところで、小笠原長和氏の著書によれば、この徳川家への柑子献上とは、天正年間家康が岡飯田に鷹狩に来た際、土用の暑さの中、差し上げた柑子みかんを賞味したことが契機となって、それ以後献上を命じたとの由である。家康がみかん栽培を房総の地に広めた故事は東金などにもあり、「御茶壺道中」ならぬ「御蜜柑道中」がどのように大和田の宿？を通っていったのか、興味がつきない。

会員消息

- ・新入会員紹介
小島圭二(勝田台3丁目在住)
- ・会員の住所変更
増田俊幸(転勤で福岡市へ)
村上昭彦(転勤で勝田台南へ)

訃報

9月1日 仲村和平様
(前本会名誉顧問・八千代市長)
10月6日 植田昭様(本会会員)
謹んでご冥福をお祈りします。

編集後記

参議院補選のため、郷土史展の日程が繰り下げになり、本通信の発行も連動して一か月ほど遅くなりました。おかげで記事が豊富で今号も6ページです。

次号はすぐ1月5日、個人研究やトピックス記事で大募集!ぜひふるってご投稿ください。

by ゆみ

(QWR07752@nifty.ne.jp)